



モエウ★カムイ 83

No. 83
DECEMBER 2014

●モエウ・カムイとはアイヌ語で「エソタヌキ」のことです。

あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS



もくじ

ぼくは、動物大使
その44 水陸両用 **カバ**.....1,2

特集
かば館の仲間たち
平原の小さな生き物.....3,4

飼育研究レポート
クマタカの繁殖.....5

**動物園の
お医者さんのカルテ**
ホッキョクグマの繁殖へ向け.....6

動物園裏側紹介
(旧) 総合動物舎編.....6

主な出来事・編集後記・飼育動物数
今号の園長の一言.....7

カバ Hippopotamus amphibius

カバ

Hippopotamus amphibius

偶蹄目 カバ科

アフリカ大陸の赤道付近に生息。体重1400~3200kg。体長は3.5m~4m。陸上動物では、ゾウの次に大きい。10~30頭ほどの群れで、1日のほとんどを湖・沼・河川などの水中で過ごし、夜になると陸に上がり、草を食べ生活している。

犬歯などを目的とした狩猟や農地の増加による水辺の環境の悪化、生息域の分断などにより生息数が激減している。

旭山のカバ

百吉 3才(11.5.28生まれ) オス



長崎バイオパークより入園

旭子 2才(12.9.30生まれ) メス



メキシコ サカゴ動物園より入園



ぼくは動物大使

その44 水陸両用 ~カバ



体 5cmから12cmもの脂肪がついている。胸の部分は特に脂肪が厚いので重い体でも水に浮きやすくなっている

顔 耳・目・鼻を水面に出すことができ、水中では耳と鼻の穴を閉じることができる。

口 幅は約50cm、あごは約150度まで開く。両側のほおの肉と舌でのどがぴったり閉まるので、水を飲み込まずに口を開けることができる。

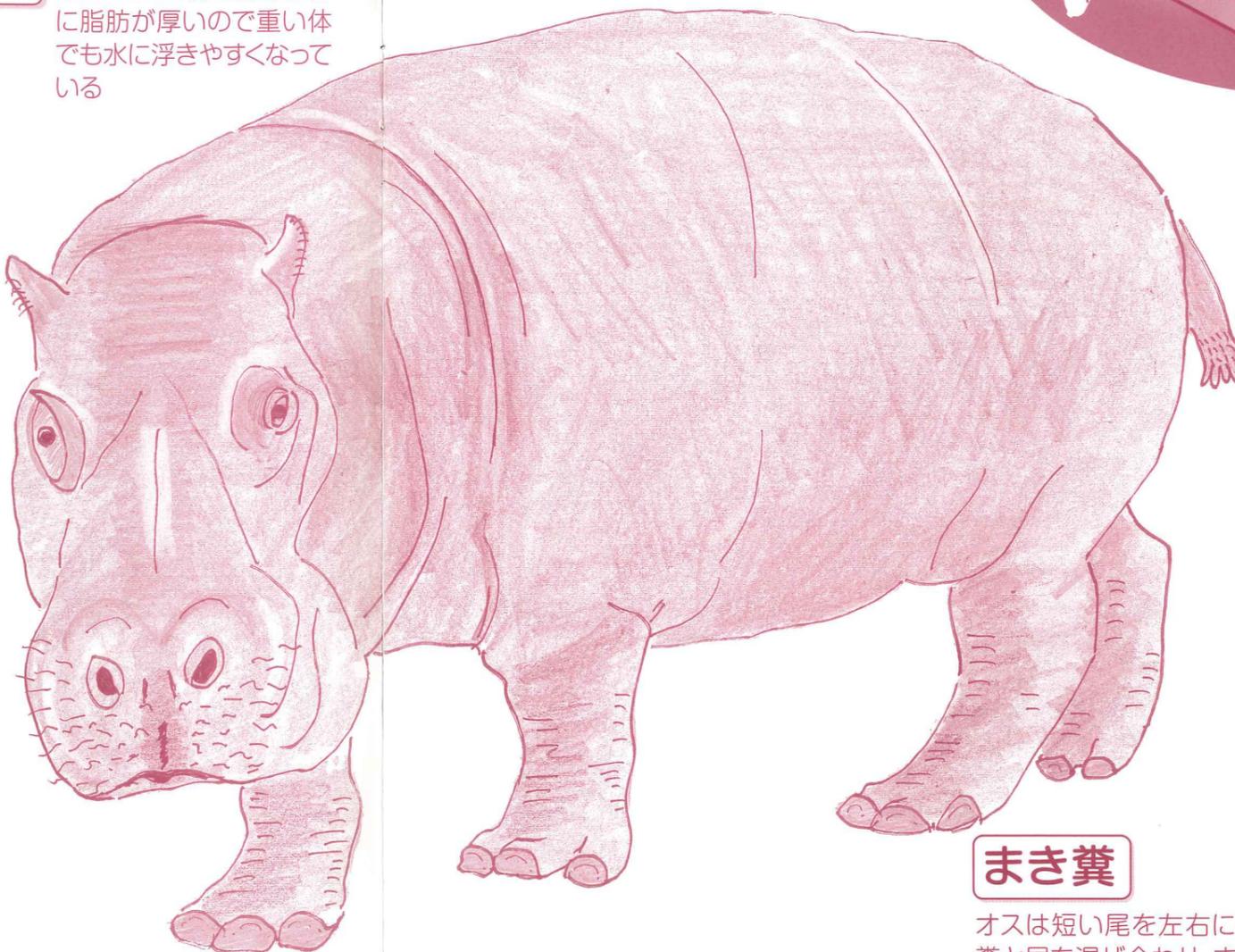
牙 オスのけんかでは、口の開き具合と犬歯の長さで勝負が決まることも…犬歯は一生のび続け、大事な武器にもなる。

エサ 夜、陸にあがり4~6時間かけ、約40kgの草を食べる。食べる量が意外に少ないのは、日中のほとんどを水の中で過ごすので、エネルギーの消費が少ないためである。

脚 指は4本。指と指の間に膜があり、水かきの役目をしている。

血の汗

カバの皮膚には皮脂腺や汗腺がありません。そのため、皮膚は人間の3~5倍も早く乾燥します。皮脂腺や汗腺の代わりに『血の汗』と言われる、赤い色の粘液を分泌する腺があります。この『血の汗』は、アルカリ性でネバネバしていて、紫外線を通さないので強い日差しから皮膚を保護し、殺菌作用もあり細菌の感染を防ぐ役目があります。



まき糞

オスは短い尾を左右にふり、糞と尿を混ぜ合わせ、まき散らす。なわばりの主張や威かくする時、餌場から戻ってくる時の道しるべとして行う。

仔 群れから少し離れた水辺で出産。妊娠期間は227~240日で1産1子。授乳も水中で行う。

水陸両用

見かけは太っていて、動きはのろそうなカバですが、陸上では本気を出せば時速40kmもの速さで走ることができます。

また、水中では優雅に泳いだり歩き回り、約6分間も潜っていることができます。

最近のDNAによる分析では、クジラ類と近縁だと言う結果もあり、また水中での育児・ほとんど毛がない・皮脂腺が無いなど、クジラとの共通点も多く、クジラと一緒に『鯨偶蹄目』と分類する考えもあります。

かば館での百吉達の泳ぎを見ていると、なるほどと感じます。

カバの分布



最強伝説?

実はアフリカで、最も恐れられている動物はカバだと言われています。カバのオスは、なわばり意識がとても強く、ライオンだろうがワニだろうが侵入してくる者に対し、攻撃してきます。

カバは、水辺や陸地でも生活しているため、人間と遭遇する確率が高く、多くの方がカバに襲われて死亡しています。おとなしそうな外見とは裏腹に、どう猛で危険な一面が有る動物なのです。

かば館の仲間たち! 平原の小さな生き物

「かば館」に誕生した「アフリカに棲む小さな生き物」スペース。
今回の特集では、その小さな生き物たちの水槽を紹介します。

タンザニアジャイアント ブラックオオヤスデ *Spirostreptus gigas*

- 体長 20~30cm
- 食性 落ち葉・野菜・動物の死骸
- 特徴 世界最大のヤスデ
黒い体色と赤い足。
足は体節から2対出る
(ムカデは1対)



タンザニアフラットロック スコルピオン *Hadogenes troglodytes*

- 体長 12~20cm
- 食性 昆虫
- 特徴 毒性が弱い分ハサミが武器。
平らな体と細い尾
毒性は低い
岩の間に体を潜り込ませる



昆虫や両生類、爬虫類など小さな生き物が苦手と感じている方が多いと思います。でも、環境全体を考えた時、彼らは生態系の中で非常に大切な役割を持っています。枯れた植物、動物の死骸などを分解したり、増えすぎた昆虫を食べてくれたり、小動物のエサとなったり...こうした小さな生き物たちにも注目し今後の環境保全について取り組んでいかなくてはならないと考えています。



担当飼育員: 白木 雪乃



マダガスカルコックローチ *Gromphadorina portentosa*

- 体長 6~8cm
- 食性 草食
- 特徴 世界最大のゴキブリ。
大人になっても翅(はね)は生えず飛ぶことはできない。
オスには角があり、
オス同士闘うことがある。



アフリカウシガエル *Pyxicephalus adspersus*

- 体長 14~20cm
- 食性 昆虫・サソリ・カエル・
小型爬虫類・小型哺乳類など
- 特徴 見た目とは裏腹にアグレッシブ。
動くもので口に入る大きさの
ものであれば何でも食べてしまふ。





飼育研究レポート

クマタカの繁殖



はじめに

クマタカは主に東南アジアに分布します。日本ではおよそ2000羽が生息しますが、山林開発などの生息環境の悪化によって絶滅危惧IB類に指定されています。旭山動物園では1968年から傷病鳥獣として保護された本種を飼育してきましたが、過去に産卵はあっても繁殖まで至っていませんでした。

繁殖までの道のり

メス2羽のみの飼育となっていた2005年に秋田市大森山動物園からオスを譲り受け、再び繁殖を試みました。まず、このメス2羽と新しく来たオスを同居させ、オスと相性の良い方のメスで翌年からペアリングを始めました。2羽の相性はいいものの、なかなか繁殖行動を観察できません。飼育環境、エサ、巣材などをいろいろと変更しましたが、鳴き交わしと巣を少しいじるような行動が観察できる程度でした。

初めての繁殖

2011年によく交尾や造巣行動が確認され、3月11日に初めての産卵がありました。クマタカは1卵しか産卵しないため、孵化することを祈りながら待ち続けること50日、5月10日に待望のヒナが孵化しました。しかし、親がヒナに給餌する様子をあまり確認できません。注意深く観察を続けていましたがヒナは衰弱で死亡してしまいました。翌2012年も産卵はしましたが、抱卵途中で破卵してしまいました。

介添え給餌

2013年は2年ぶりに孵化に成功しましたが、や



ヒナへの介添え給餌の様子

はり親からヒナへの給餌がほとんど観察できません。そこで、ヒナの人に対する刷り込みを抑えて成育させるため「介添え給餌」を実施しました。親のストレスにならないように、そしてヒナが親に給餌を自然と要求できるように、介添え給餌の回数と時間は最低限とし、ヒナの近くに親の餌を置くことでヒナへの給餌を促しました。結果、ヒナは30日齢を過ぎたころには人を警戒しはじめ、親に対して積極的にエサを求めるようになりました。71日齢で無事巣立ちを迎え、当園では初めて、国内でも釧路動物園に次いで繁殖成功となりました。

おわりに

今年もこのクマタカが孵化しヒナは立派に巣立ちしました。猛禽類の介添え給餌は親が人に対して刷り込まれていることが前提ですが、今回のように野生由来の個体でも可能であることがわかりました。クマタカのような希少猛禽類の飼育下繁殖を行う際には、人工育雛だけではなく介添え給餌も選択することで継代繁殖や個体数の増殖、保全にも繋がると考えます。

(ワシ・タカ担当 大内章広)



動物園のお医者さんのカルテ

ホッキョクグマの繁殖へ向けて



当初はぎこちない交尾も、ここ数年はスムーズになり、妊娠・出産を期待して冬を迎えるも…、という繰り返しの旭山のホッキョクグマ。

雄のイワンの繁殖能力に問題が？(無精子症等)とも思っていたのですが、なかなか検査する機会もありませんでした。

2013年2月、北海道大学と帯広畜産大学の協力の下、精液の採取と検査を試みました。以前にアムールトラで用いた電気刺激(肛門に電極を挿し、電気で刺激する)ではなく、尿道にカテーテル(管)を入れて、精管にたまっている精液を採取する方法です(とっても簡単!)

無事に精液を採取でき(多分ホッキョクグマでは初!),検査の結果、精子の形状も問題ありませんでした。ただ、その後行われた他の雄クマに比べて精子の数が少ないこともわかりました(これはイワンの問題なのか、採精方法がまだ確立していないためなのかはわかりません)。

結局2013年シーズンは妊娠しませんでした。



イワンを麻酔して、精液採取を行う(2014年2月)

そして迎えた2014年シーズン、妊娠の確率向上を期待して、交尾前(1月)の雄にホルモン剤を投与しました。それに反応した変化も見られ(血液中や糞中の生殖ホルモン値)、冬には良い知らせがあることを期待しています。

野生動物では家畜の人工授精等のように獣医が繁殖に関わることは多くはありません。今回の取り組みで少しでも繁殖成功への手助けができればうれしいです。(獣医師:中村)

動物園裏側紹介

総合動物舎編



今はエミューのみが展示されています

キリンがいた放飼場と寝室は自由に見られます(寝室は夏期のみ)



旧サイの寝室には園内で繁殖したタヌキ達が

主なできごと

《2014年》

- 4月26日 夏期開園
- 4月29日～7月30日 春の企画展「知床のいきものたち」
- 5月4日 旭山探検隊!!「植物編」開催
- 6日 シンリンオオカミ出産
- 11日 旭山探検隊!!「野鳥編」開催
- 17日 タンチョウふ化
- 18日 ホッキョクギツネ出産
- 29日 飼育勉強会
- 6月7日 コノハズク産卵
- 10日 飼育勉強会
- 11日 クマタカ産卵
- 12日 シロテテナガザル出産
- 17日 イワトビ・キングペンギン産卵
- 20日 エゾシカ出産
- 21日 オシドリ産卵
- 7月1日 開園記念日
- 3日 コクチョウふ化
- 10日 飼育勉強会
- 11日 エゾシカ出産
- 12日 旭山探検隊!!「フクロウ編」開催
- 16日 アミメキリンのマリモ急死
- 27日 レッサーパンダ 出産
- 31日 ホッキョクギツネ 死亡
- 8月1日～3日 第39回サマースクール開催



8月9日～15日 夜の動物園



9月25日 カバのメス搬入

- 8月9日～15日 夜の動物園
- 10日 旭山探検隊!!「昆虫探し編」開催
- 14日 インドクジャク 人工孵化
- 20日 総入園者数4000万人達成
- 25日 インドクジャク 自然繁殖
- 8月25日 カバのメス メキシコより入園
- 28日 飼育勉強会
- 31日 テナガザルの子愛称「こだま」に決定
- 9月10日 飼育勉強会
- 9月26日 アムールトラ(オスとメス) アメリカより入園

編集後記

長い間モユクカムイをお休みしてしまいすいませんでした。
今号から編集委員を増員して、年四回発行をめざしてがんばっていきたいと思います。これからもよろしくお願ひします。
旭山動物園の公式HPにて「モユクカムイ」の今まで掲示していなかったバックナンバー「NO.1-61」をアップしました。旭山動物園の歴史を感じられるものなのでぜひごらんになってください。
(鈴木)

飼育動物数 (平成26年12月末現在)

- 哺乳類／ 44種・269点
- 鳥類／ 65種・357点
- 爬虫類／ 8種・19点
- 両生類／ 5種・73点
- 合計／ 122種・718点

今号の 園長の一言



僕たちは
動物たちから
たくさんの
ものを奪って
生きている

モユク・カムイ No.83 平成26年12月31日

- 発行所／旭川市旭山動物園 〒070-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
- 発行／坂東 元 ●表紙絵／中田 真一
- 編集／丸一喜・畠山 淳・奥山 英登・大内 章広・佐賀 真一
中村 亮平・鈴木 悠太
- 印刷／(株)須田製版
〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266